都立新国際高校（仮称）開校に向けた専門家会議（第３回）

次　第

日 時　令和 ５年 １０月 ３０日（月）
午後３時から午後５時まで

1　開会

2　議事 特色ある教育活動等の検討について

(1)「English Language Outreach」
Meagan Aitkenhead　Public Affairs Section　U.S. Embassy Tokyo
「Benefits of STUDY IN THE UNITED STATES」
Tomoko Silva　Education Outreach Coordinator STUDY IN THE UNITED STATES

(2)「Developing Global Talent」
Jesper Koll　Fin City. Tokyo Ambassador

(3) 第１・２回会議のポイントについて
「国際色豊かな学校の開設に向けた生徒の意識調査」の結果について
議論のとりまとめの方向性について

3　その他

配　布　資　料

（資料１）委員名簿、事務局名簿

（資料２）特色ある教育活動等の検討について

（資料３）第1・２回会議のポイントについて

（資料４）「国際色豊かな学校の開設に向けた生徒の意識調査」の結果について

（資料５）議論の取りまとめの方向性について

（資料６）今後の予定について

【参考資料】

1 「新国際高校設置に係る検討委員会報告書」（平成29年3月）

2 「都立新国際高校（仮称）基本計画検討委員会報告書」（平成31年3月）

3 第２回都立新国際高校（仮称）開校に向けた専門家会議　議事要旨

【資料１】都立新国際高校（仮称）開校に向けた専門家会議

＜委員名簿＞

	職　名	氏　名	備考
学識経験者	東京学芸大学附属国際中等教育学校長	荻　野　　勉	
	上智大学言語教育研究センター教授　センター長	藤　田　　保	
	明海大学教職課程センター・地域学校教育センター教授	米　村　珠　子	
港区教育委員会関係者	港区教育委員会事務局学校教育部教育指導担当課長	篠　﨑　玲　子	
学校関係者	東京都立国際高等学校長	齋　藤　直　子	
	東京都立立川国際中等教育学校・附属小学校長	市　村　裕　子	

事務局	教育庁高校改革推進担当部長	猪　倉　雅　生	
	教育庁教育改革推進担当部長	根　本　浩太郎	
	都立学校教育部都立高校改革企画調整担当課長	岐　下　英　男	
	都立学校教育部都立高校改革推進担当課長	稲　村　理在子	
	都立学校教育部教育改革推進担当課長	横　田　雅　博	
	都立学校教育部施設調整担当課長	見　目　充　幸	
	指導部高等学校教育指導課長	信　岡　新　吾	
	指導部高校教育改革担当課長	小　林　　靖	
	グローバル人材育成部国際教育企画課長	軽　部　智　之	
	人事部人事計画課長	奥　富　洋　一	
	都立学校教育部高等学校教育課課長代理（教育改革推進担当）	高　橋　顕　子	
	都立学校教育部高等学校教育課指導主事	松　井　健　彦	

【資料２】 特色ある教育活動等の検討について

１ 「English Language Outreach」

Meagan Aitkenhead

Public Affairs Section U.S. Embassy Tokyo

「Benefits of STUDY IN THE UNITED STATES」

Tomoko Silva

Education Outreach Coordinator, U.S. Embassy Tokyo

２ 「Developing Global Talent」

Jesper Koll

Fin City. Tokyo Ambassador

【資料３】 第1回会議のポイントについて（再掲）

〇IB教育の良いところを日本の教育と結合させながら、新しい教育を作っていく。主体的・対話的な深い学びに導いていくことが可能。IB教育で大切にされている「学問的誠実性（Academic Integrity）」を身に付けることが大切。

〇大学進学以外の進路を目指す生徒達が育ってもよく、幅を与える機会が高校時代に提供できると素晴らしい。

〇教科横断的・文理融合的な学びに向けたカリキュラム、情報やＡＩ、データサイエンスや自然科学などの学びの視点も必要。

〇在学中に国内外の大学の研究機関や大使館、インターナショナルスクール等、英語圏以外の国や地域も含めて、海外との繋がりをつくることが大事。

〇オンラインとリアル双方の交流機会を取り入れ、国内外の豊かな体験活動が大事。国際交流をイベントで終わらせず、学習とどう統合していくか。生徒が探究で学んだことをフィールドワークとして企画・実践させる独自の取組も大事。

〇港区の中学校と交流する素地、連携を模索してほしい。

〇海外大進学には、学校を超えた情報・ノウハウを共有する仕組みの構築が効果的。外部専門人材の活用等により国際交流や海外進学の拠点とすることも検討。

〇新国際高校（仮称）と国際高校、両校とも発展するような形を考えたい。

【資料３】 第２回会議のポイントについて①

（ICTの活用等について）

○教育データを活用し達成度を分析することで生徒への支援内容を可視化。ICTやAIは海外とのコミュニケーションの道具としても役割を発揮。

○実社会での問題発見・解決に役立つ教科等横断的な探究活動を通して、論理的思考力等が向上。探究と創造の往還による教育手法を使い、各教科での調査・探究の実践と総合的な探究の時間等での創造活動をリンクさせながら学びの質を向上。

○STEAM*教育については、各教科の知識等の強化といった段階から、社会の課題を解決するための教育へと進化。実践には教育課程と教員の組織体制の整備が重要。
（*S=Science, T=Technology, E=Engineering, A=Art, M=Mathematics）

（国際交流等について）

○現地研修は海外で学ぶ体験を楽しむ方向に変化。オンラインを活用した事前事後の学習を充実させ、現地研修をコアとした長期プログラムとすることが大事。

○興味関心のある領域を英語で学ぶことが英語学習への強い動機付けに。交流先や内容も幅広く考え、現地行政や専門家等と連携しプログラム開発の充実が必要。

○学校を外部の資源も活用しながら、社会と結びつく開かれた場にすることも必要。

○生徒が外に出てプログラムの中身を自ら考える。教員はファシリテートで支える。そういう形で融合できたら、有意義なプログラムができる。

【資料３】 第２回会議のポイントについて②

（入学時の姿について）

〇入学時に一定の英語力を求めるとしても、エリート的な英語力の高さではなく、積極性や意欲を評価することが大事。突破力のある生徒は海外でも活躍する。

〇STEAM教育に力を入れていくためには、科学的な思考ができるかという論理性を、入学の要素として入れていくことも検討の一つ。

（学ぶ環境について）

〇多様な生徒がいる環境下で揉まれて伸びる生徒は多い。それをサポートし、一人一人が自尊心を高めあえる環境づくりがグローバル人材の育成には必要。

〇海外に出て経験するマイノリティ感を高校生のうちに体験することも大事。

〇海外での経験が生かせていない生徒がいる。自分のもっているものの良さを認め、生徒たちがお互いに認め合いながら発展していく教育も必要。

〇STEAMなど教育内容の充実が必要。文系理系を問わず、海外に出て行こうというメッセージの発信が大事。

〇STEAMのA*も大事にしながら、文系的テーマでも科学的な手法で分析し、知見を得ることのできる人材が求められている。外部人材等をさらに活用し、Ｚ世代の感性に応える学校づくりが必要。（*Art(s)=芸術、リベラルアーツ（文化、生活、経済、法律、政治、論理等））

【資料４】「国際色豊かな学校の開設に向けた生徒の意識調査」の結果について

調査の概要

目　　的	都立新国際高校（仮称）の開校に向けた検討を進めるにあたり、開校予定地の近隣中学生や、国際色豊かな都立学校の生徒の意識等を把握するとともに、生徒の意見を今後の取組の参考とする。
調査実施時期	令和５年９月実施
調　査　対　象	港区立中学生、都立国際高校及び都立立川国際中等教育学校（前期課程・後期課程）生徒
調　査　方　法	インターネットを用いたWEBアンケート方式
回　答　状　況	

調査対象	調査対象数	回答数	回答率	主な調査項目
港区立中学校（１校）	199人	147人	73.9%	・海外の滞在経験・地域 ・グローバル化する社会での活躍希望 ・将来海外と関わる仕事への希望 ・高校等で取り組みたいこと　など
都立立川国際中等教育学校（前期課程）	477人	455人	95.4%	
都立立川国際中等教育学校（後期課程）	432人	379人	87.7%	・海外の滞在経験・地域 ・中学校卒業段階での英語力 ・英語力を向上させるための取組 ・海外大学への進学希望、その理由 ・学校で受けてみたい授業　など
都立国際高等学校	686人	267人	38.9%	

【資料４】「国際色豊かな学校の開設に向けた生徒の意識調査」の結果について

港区立中学校・都立立川国際中等教育学校前期課程に在籍している生徒の意見

・**将来グローバル化する社会の中で活躍**するような人になりたいと考えている生徒は**約7割**。

・**海外と関わる仕事をしたい**と考えている生徒は**約6割**。高校で取り組みたいことは、**英語の勉強**が最も多い。次いで、**コミュニケーションをとる力**の習得、**海外の生活や文化、習慣を学ぶ**こと、**海外の体験**をしたいとの意見も多い。

・高校での理系と文系の選択を聞いたところ、文系（26%）よりも**理系（35%）を選択した生徒がやや多い**が、**理系も文系も両方学びたい（27%）**という意見も多い。

・**第二外国語を学びたい**生徒は**約6割**。フランス語が最も多く、次いで中国語。学びたい言語は多様化している。

都立国際高校・都立立川国際中等教育学校後期課程に在籍している生徒の意見

・英語力向上のための取組では、**海外研修、留学生受入れ、インターナショナルスクールや国際機関等との交流**への期待が高い。国際的な視野を広げるため、**海外ボランティアや長期留学**に取り組んでほしいとの意見も多い。

・**コミュニケーション力**のほか、**英語での表現力・議論する力**を身に付けたいと思う生徒は**約８割**と多い。

・理数分野の中では**数学へのニーズ**が高い。文理を分けない**バランスの良さ**や**教科横断的な学び**、興味関心に応じた**自由な教科等の選択、校外講座履修の単位認定等**を求める様々な意見がある。

・**第二外国語を学びたい**生徒は**約7割**。中国語が最も多く、次いでフランス語。学びたい言語は多様化している。

・**海外大学進学を考えている生徒**は**約1割**（未定も含め**約3割**）。進学実現のために、**情報提供や相談体制の充実**を求める意見が多い。同生徒の**約9割**は、**英語以外の教科の学習も英語で学びたい**と考えている。

【資料５】議論のとりまとめの方向性について

＜素案＞

＜Ⅰ＞都立新国際高校（仮称）の概要

1　これまでの検討経過と社会情勢の変化　　2　設置の基本的枠組み　課程・学科等、設置場所、学校規模等、開校予定年度

＜Ⅱ＞基本的な教育のコンセプト

1　教育理念

国際社会において、地球規模の問題解決に積極的に取り組み、他者と協調しながら、より良い未来を構築するグローバル人材を育成する。

2　育成を目指す生徒像

- **豊かな教養と論理的思考力、総合的な語学力を基礎として、主体的に学び続けながら行動し、自分の将来を切り拓く生徒**
- **多様な価値観を受容しながら、協働して社会の課題解決に取り組み、新たな価値を創出することができる生徒**
- **自立した人間として前に踏み出す強い意志、高いコミュニケーション能力、柔軟性や創造力を有し、世界をけん引していくことができる生徒**

3　教育課程の基本方針

（１）幅広く豊かな教養を身に付け、思考の基盤を形成

・幅広く豊かな教養を育むため、リベラルアーツ教育を重視。教科横断的・文理融合的な学びを目指し、多様な選択科目を設定
・総合的な語学力強化と多文化への理解を目指し、ネイティブ等による少人数習熟度別授業や第二外国語講座等を実施

（２）論理的思考力等を高め、新たな価値を創出する力を育成

・課題解決に向けた論理的思考力や主体性等を高めるため、幅広い視点による探究的な学習を設置
・探究的な学びをより高めるため、国内外の大学や研究機関、大使館やインターナショナルスクール等と連携し、STEAM教育を実践
・海外スタディツアー等の実体験を重視するとともに、ICTやAI等を最大限に活用し、協働する力や創造力を向上

（３）自ら積極的に行動し、成長し続ける意欲を醸成

・積極的に行動する力や意欲を醸成するため、国内外でのボランティア活動やインターンシップ等に全ての生徒が参加
・世界で活躍するトップリーダーやアントレプレナー等から、困難を柔軟に乗り越える力や発想力・想像力を学ぶ講座を設置

【資料５】議論のとりまとめの方向性について

４　教育課程等における学校の特色ある取組

〇リベラルアーツ教育の充実
・論理的・批判的思考力の向上とともに、多文化が共存する中で対話し議論する力を育成し、考えを深めていく学びを充実
（例：ロジカルシンキング・クリティカルシンキング（LTCT）、言語表現等）
・社会の課題解決に向けた調査・分析力を高めるため、情報や自然科学などの学びを充実
（例：データサイエンス、プログラミング、数理経済等）
・生徒が実社会と結びつけてより深く国際関係について学べるよう、国際系・社会科学系の複合的な要素をもつ学びを充実
（例：国際政策、地政学、文化人類学、多文化共生、環境政策、SDGs等）
・国内外の大学等と連携し、多文化理解・対話力強化プログラムなど、コミュニケーション力を高める講座を設置

〇総合的な語学力強化と多文化理解教育の充実
・ネイティブ等による少人数習熟度別授業や集中的な英語合宿等により総合的な英語4技能の力を向上
・他者とのコミュニケーションや多文化への理解の促進を目指した第二外国語を設置し全員が履修
・AI教材等を活用し、生徒の学習履歴による習熟度や興味・関心に応じた多様なコンテンツを提供し、聞く力・話す力を向上
・海外大学公開オンライン講座MOOCや国際的著名人のプレゼンテーション番組TED等を活用し、実用的英語活用能力を強化
・教科の学習内容を英語で学ぶ内容言語統合型学習（CLIL:Content and Language Integrated Learning）を導入
・EAP（English for Academic Purposes）により、アカデミック論文の読解やリポート作成、プレゼンテーション等を通して、海外大学等でも通用する高度な英語力や表現力等を強化

〇探究的な学習や教科横断的な学びとSTEAM教育の充実
・国内外の大学や研究機関、大使館やインターナショナルスクール等と連携し、幅広い視野で社会問題等に取り組む探究的な学びを実践するとともに、課題解決型STEAM教育を導入
・海外スタディツアー等現地研修での実体験×オンラインのハイブリットプログラム＊とし、交流を続けながら協同研究を実施
（＊現地研修をコアプログラムとし、事前事後のオンライン研修と組み合わせた長期間のプログラム）
・研究成果を世界に発信し、大学等と繋いだ「グローバル・プラットフォーム」で多様な価値観をもつ大人と交流しながら成長を促進
・オンライン交流・共同研究に当たり、AI自動翻訳ソフトやVRなど最先端の技術も活用しながら、探究をより深めていくことを重視

〇社会参加・社会貢献等体験活動やアントレプレナー教育とSTEAM教育の充実
・国内外でのボランティア活動やインターンシップ等の社会参加・社会貢献活動に全ての生徒が参加
・世界で活躍するトップリーダーやアントレプレナー、アーティスト等から、困難を乗り越える力や発想力・想像力を学ぶ講座を設置
（生徒の成長を促す講座を開設し、他校生徒も受講可能とするなど、学校をグローバル人材育成の拠点として設定）
・様々な研究発表会やコンテスト等に全ての生徒が参加。個人のほかチームでの参加を促し、チームビルディング等についても体験

【資料５】議論のとりまとめの方向性について

４　教育課程等における学校の特色ある取組（前頁からの続き）

〇海外大学等への進学支援（グローバルな環境で学ぶ国内大学進学支援等を含み、多様な進路選択を実現）
- **海外大学進学に必要な講座（エッセイライティング等）を開設するとともに、ＰＳＡＴ、ＳＡＴ海外大学等への進学に必要な試験を校内で実施するなど必要な支援体制を整備**
- **外部専門機関等と連携し、知識と経験のある留学カウンセラー等による情報収集と提供、相談体制を整備**
- **海外大学等との連携による推薦型入試や、国内大学の総合型選抜入試の活用など、ニーズに応じた多様な進路対策**

〇海外帰国生徒・在京外国人生徒への学習支援等の充実
- **学習言語としての日本語活用能力の向上、生徒の出身国や滞在先等で習得した言語の継続的な学習支援**
- **多様なルーツの生徒が有する言語や文化等を校内で共有し、異文化理解や多様性の尊重の意識を醸成**

〇連携交流等に当たって必要な視点
- **MOU締結国等海外からの留学生の受入れ等により、世界中の学校との継続したネットワークを構築**
- **日常の学校生活の場で、多様な形の学びや交流を通して、世界中の多彩な考え方や文化・歴史等に触れる機会を創出**
- **設置場所周辺中学校等との連携により、育成を目指す能力を共有するなど、小中高校を通したグローバル人材育成の取組を推進**

＜Ⅲ＞　教育活動の実現のために必要な取組

〇グローバルな視点をもつ教員の採用・配置・育成等
〇外部人材の活用
（高大連携、民間事業者や専門人材の活用、東京都教育支援機構（TEPRO）との連携による国際コンシエルジュ機能等の活用）
〇国際色豊かな学校等と連携
（各校の特色をさらに充実・発展させながら人事交流や研修等を通じて連携し、各学校の魅力も向上）
〇相談等支援体制の充実（卒業生やNPO等との連携による相談体制の整備、自己肯定感を高める支援講座等の実施）
〇自発的な生徒の学びを支援（自習・ディスカッション等生徒の意欲を伸ばす環境や国際交流の場を整備）
〇効果的な入学者選抜の検討（英語力については、コミュニケーションに必要な一定レベルを前提とし、論理的思考力等を測る選抜を検討）

＜Ⅳ＞　世界に羽ばたくグローバル人材の育成に向けて

〇特色ある取組を通して生徒の可能性を最大限に伸ばし、国内大学のみならず、アジア等も含む世界中の様々な大学を展望
〇世界中の学校との継続したネットワークを構築することにより、グローバル人材の育成に向けた拠点校としての位置付け
〇都立国際高校については、IBワールドスクールとして、その教育理念等を校内全体に拡大。新たに開設する本件高校も含め、国際色豊かな学校と連携しながら、持続的な発展を目指す

【資料６】今後の予定について

	内　容	開催日	備考
第1回	新国際高校（仮称）の検討について 〇特色ある教育活動について　都立国際高等学校、都立立川国際中等教育学校・附属小学校の取組【各校長】	7 /26	
第2回	特色ある教育活動の検討について		
	〇高等学校におけるＩＣＴの活用 東京学芸大学大学院教育学研究科 教授　北澤　武 〇新設高校に向けた国際交流事例の紹介と今後の課題解決 オーストラリア　クィーンズランド州政府駐日事務所 上席商務官　田村　杏奴 〇東京学芸大学附属国際中等教育学校の概要【荻野座長】	9 / 7	
第３回	〇English Language Outreach 米国大使館広報・文化交流部英語教育コーディネーター ミーガン　エイトケンヘッド Benefits of STUDY IN THE UNITED STATES 米国大使館広報部　Education USA　シルバ　智子 〇Developing Global Talent Fin City. Tokyoアンバサダー　イェスパー　コール	10/30	対面とオンラインのハイブリットで実施
第４回	**議論のとりまとめ**	**12/22 金曜 15:00 ～**	**オンライン**